

夏越の大祓 (疫病退散) の御案内

「おおはらえ」

「水無月の夏越の祓いする人は、ちとせの命のぶといふなり」
ほんとしごと とりおこなわれ

『大祓』とは、半年毎に執り行われ、日常知らず知らずに犯している過ちや、目には見えない心身の罪穢を、「人形」に移し、祓い清める日本古来よりの神事であり、穢とは汚いこと罪とは悪いことをした罪ではなく身体を包み隠してしまうことであり、穢とは汚いことではなく生命の気を枯らしてしまう事で、様々な病気や悩み、苦しみの原因とされます。当神社におきましては、厳しい夏本番を前に半年分の罪穢の一切を祓い清め、無病息災を祈願する「夏越の大祓・茅の輪くぐり」を六月二十八日(日)午後三時より斎行致しますので、お誘い合わせ御参列下さいますようご案内申し上げます。

今年新型コロナウイルス感染予防対策として、参列者のマスク着用厳守と三密を避けて行うとともに、直会を簡素化して行いますのでご理解ご協力をお願い致します。

尚、参列出来ない方でも、自宅において、形代(身代わり)祓いを行うことが出来ますので、ご家族皆様さんでお受け下さい。

【お祓い方法】

- ◆参列される際は、事前申し込み不要で、十五分前までお越し下さい。終了後は婦人部のご協力により直会があります。(未使用の形代はそのまま返納下さい。)
- ◆参列出来ない方が各自でお祓いする方法は、一人一人の形代をとり、悪しきものを移すよう念を込め、頭から足まで全身をなでぬぐい(特に不調のところは、念入りに)、その後人形に三度息を吹き掛け、最後にお名前と年齢を記入し、袋に納めます。
- ◆車形も同じく車をさすり、車輛番号・運転者を記入し袋に入れます。
- ◆終わりましたら、申込書(袋)に住所・氏名とその下にご家族の人数を記入し、事前に神社にご持参頂く(社務所が不在の時は賽銭箱にお納め下さい)か、又は各地区総代までお届け下さい。郵送でもお受け致します。
- ◆形代が不足の際は神社に置いてありますので、ご自由にお持ち下さい。
- ◆初穂料はお心持ちで結構です。
- ◆お申込者には、大祓修符と茅の輪御守、各自の大祓身守を授与致します。



坪沼八幡神社

鎮座地 仙台市太白区坪沼字館前東六九
電話 〇二二―二八一―二五八九

茅の輪くぐりとお守りの由来

夏越の大祓では疫病退散の故事にならって「茅の輪くぐり」を致します。

これは日本神話に由来しており、いかに日本人が昔から疫病を恐れ向き合ってきたかがうかがわれます。

「茅の輪」にはこんな由来があります。「釈日本紀」備後国風土記逸文によると、むかし、ある村に蘇民将来（そみんしょうらい）、巨旦将来（こたんしょうらい）という兄弟が住んでいました。ある日、武塔天神（ぶとうてんじん）という神さまが旅の途中、村に立ち寄り、裕福な巨旦将来に一夜の宿を求めましたが断られてしまいました。次に兄の蘇民将来に一夜の宿を求めたところ、貧しいにも関わらずできる限りのもてなしをしました。

翌朝、宿をかりた武塔天神は、「われはスサノオの神なり」と名乗り、「もし疫病が流行した時には、蘇民将来とその子孫は茅を以って輪を作り腰に付けておれば免れるであろう」と言い残し去っていきました。

そして疫病が流行したときに巨旦将来の家族は病に倒れましたが、蘇民将来とその家族は茅の輪のおかげで助かったそうです。

この言い伝えから流行病や食中毒が多くなり体調をくずしやすい夏に、茅の輪をくぐって無病息災をいのる行事が古くから行われるようになりました。当社におきましては、茅の輪は大祓当日の前日から一週間程度境内に設けてありますので、ご自由にくぐって下さい。

【茅の輪のくぐり方】

正面で一礼の後、左↓右↓左と周り、最後に正面から神前に進み参拝する。



茅の輪くぐりの様子